

令和6年度 姉妹都市交流「学校新聞派遣員」

学校新聞特派員報告書



令和6年8月5日（月）6日（火）7日（水）

派遣地 姉妹都市 大分県竹田市

中野市立南宮中学校

大分県竹田市について



大分県竹田市は九州の内陸部、大分県の南西部に位置します。熊本県と宮崎県と接し、面積は中野市の約4倍、人口は約2分の1です。

特産物は「かぼす」や「キノコ」「スイートコーン」「トマト」などで、また、畜産業が盛んに行われており、有名な黒毛和牛などを生産しています。自然環境では、土地が広く、四方を山で囲まれており、全体の70パーセントが森林です。観光では、瀧廉太郎が「荒城の月」のモデルにしたことで知られる岡城跡があります。この城は、NHKで放送された日本最強の城に選ばれたことがあり、強い守りで有名な城です。また火山が近いため、温泉がたくさんあります。竹田市は城下町なこともあり、市の中心部には趣のある街並みが多く残っていました。

平和学習について

大分県竹田市では、平和学習に力を入れています。毎年8月6日には夏休み中にもかかわらず登校し、広島平和式典を見て、黙祷をしたあと、原爆について話し合い、平和や戦争に関わる授業を受けます。私は3年生の教室で杉原千畝さんについての話を聞きました。杉原千畝は第二次世界大戦中にリトアニアの日本領事館に勤めていた人です。当時、ユダヤ人が差別され、たくさんのユダヤ人が強制収容所へ送られ命を落としました。そのためユダヤ人の多くはドイツ占領下の地域から亡命をしようとし、そのために、日本を通過する必要がありました。



杉原千畝はその日本を通過するためのビザを発行することをユダヤ人に頼まれたのですが、日本は当時ドイツと手を組もうとしていたため、日本政府からの許可はおりませんでした。しかし杉原千畝は国の命令に逆らい、多くのユダヤ人にビザを発行して、たくさんのユダヤ人の命を救いました。その話を聞き、自分はこの行動を正しいと思うか、自分も同じ状況に置かれた時同じ行動を起こせるかなどを考え話し合いました。クラスで活発に意見を交換していて、竹田市の中学生の平和学習への深い理解を感じました。

3日間の交流会を通して

新聞特派員として大分県の竹田市へ行きました。竹田市は瀧廉太郎が育った市で、中野市とは半世紀にわたって音楽姉妹都市です。私たちはこの竹田市では3日間多くのことを学びたくさんの思い出を作ることができました。特に岡城は守りがとても強く、断崖絶壁で驚きました。ありがとうございました。

竹田中学校との平和学習について

竹田中学校の皆さんと原爆や平和について考え学びました。1945年8月6日午前8時15分に広島県広島市に原子爆弾が投下されました。さらにその3日後の8月9日午前11時2分に長崎県長崎市にも原爆が投下されました。大分県竹田市の小中学校では毎年8月6日に原爆について学ぶために学校に集まり、学習しているそうです。



僕たちはまず初めに全校集会で原爆や今後どうしていくのか、自分たちに何ができるのかについてまとめた事を発表し、共有しました。原爆が投下された日は天気も良く、いつものような朝だったけれど、一瞬にして多くの命が奪われました。原爆の被害を受けた人たちの思いは計り知れず、僕は苦しく辛い思いをしたのだと思いました。意見を交流していく中で今後僕たちは、今すぐ多くの人を守り、助け、救う事は難しいので、まずは身の回りの人たちの事を思う事が大事だと思いました。自分の発言や行動を考える事で人を傷つける事は少なくなり、その積み重ねが平和へのまず一歩になると思いました。

次に竹田中学校3年生の生徒の皆さんと「杉原千畝さんの生き方から平和について考えよう」というテーマで学習しました。杉原さんはリトアニアの外交官で、迫害され、他国へ亡命したいと強く願っていたユダヤ人にビザを発行しようとしたのですが、日本政府からは「発行するな」と命令されてしまいました。しかし、できる事はやろうと考えた杉原さんは、政府の命令を無視し、ビザを発行してユダヤ人を救ったという話を聞きました。その後、自分が杉原さんの立場ならどうするのかと考えました。僕は最初、ビザを発行する行為は日本と同盟を組んでいたドイツを敵に回す行為であり、日本全体に迷惑をかける可能性があると考えたため、ビザを発行しないと考えましたが、話し合いをして目の前に自分の力で助けられる命がいるのなら助けた方が良いと考えるようになりました。竹田中学校との平和学習を通して改めて命の重みと平和の大切さを感じました。

3日間の交流会を通して

今回は中野市の姉妹都市交流で大分県竹田市を訪問させていただきました。竹田中学校との平和学習では、初めて関わる人と交流する事によって色々な意見を聞かせていただくことが出来ましたし、多くの人と関わり仲を深める事も出来て良かったです。



岡城跡や滝廉太郎記念館では滝廉太郎さんが生涯の中で竹田市とどう触れ合っていたのか、どのように曲が生まれたのかを考える事が出来て学びを深める事が出来ました。竹田市の方々の温かさを感じる事もでき、お食事も美味しくとても楽しく充実した3日間となりました。またぜひとも行きたいと思いました。最後にこのような経験をさせてくださった中野市や竹田市の皆さん、本当にありがとうございました。

瀧廉太郎記念館から感じたこと

瀧廉太郎記念館は、実際に廉太郎さんが住んでいた家です。記念館は飛び石と下駄の響きを感じられるところ、竹の響き、雀の鳴き声を感じられるところなどいろいろな響きや音を感じられる場所でした。瀧廉太郎さんが使っていたや部屋や庭、町、このような落ち着いた雰囲気で作曲できる場所があったか

らこそ廉太郎さんの不朽の名曲「荒城の月」が生まれたのだと思います。また、「荒城の月」の詩や、瀧廉太郎さんが実際に書いた手紙が保存されていました。ここから昔の雰囲気やたくさんの音が響いている感じが私にも感じられてよかったです。

記念館の中には中野市から送られた記念品（日本のストラディバリと呼ばれる小沢喜久二さんのバイオリン）があり、中野市との交流の深さも感じる事ができてよかったです。



です。

竹田市との交流を終えて

竹田市の魅力や名所など、今まで知らなかった地域の事、竹田市と中野市のつながりについて知ることができてよかったです。特に、印象に残っていることは豊後竹田駅（ぶんごたけたえき）の北側にある高さ 40m の落門の滝です。落門の滝はとても迫力があつたので印象に残りました。

竹田市立竹田中学校の皆さんと平和学習をしました。全校の皆さんとの平和学習では、広島、長崎に落とされた原爆についての新聞を読んでみての感想を発表し合いました。また、3年生の皆さんと一緒に「命のビザ」についての授業を受けました。一番印象に残ったことはとても想像力豊かで、一人一人が自分の意見を持ち、話し合い学び合っていたことです。自分と意見が違っていても決して責めることなく共感したり、認め合ったりできていたクラスでとても良い活動だったと思いました。

岡城跡見学では、戦国時代の時にどのような城として守られていたのか、坂をただ急にするだけでなく道を曲線状にしたり階段の幅を変えたりして敵に攻められにくくする工夫を考えていた昔の人の知恵はすごいなと思いました。実際に見て歩いて体験することで感じられてよかったです。

私は、初めて大分県竹田市を訪問しました。自然豊かで市役所の方をはじめとする竹田市に住む皆さんがすごく優しく温かい方だと、この3日間で感じる事ができました。また、行きたいなと思えるとても良い場所でした。

この3日間で、たくさんのことを学び、感じる事ができた、とてもいい経験になりました。ありがとうございました。





竹田市役所到着



市長さんとお話しました



皆さんと写真を撮りました



歓迎会では美味しい食事を頂きました



かぼすジュースも美味しかったです



竹田中の生徒会の皆さんとも
写真を撮りました



竹田中の平和集会に参加させて
いただきました



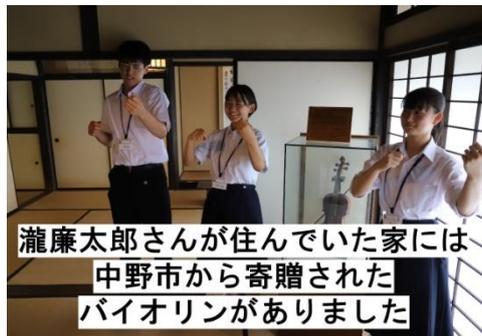
縦割りのグループで
原爆についての考えを
お互いに共有しました



3年2組の皆さんと一緒に平和に
ついて考えました



竹田中の生徒会の方々と生徒会
について意見交換しました



瀧廉太郎さんが住んでいた家には
中野市から寄贈された
バイオリンがありました



瀧廉太郎さんの像と一緒に
記念写真を撮りました



歴史文化館で岡城の模型を見ました



岡城跡を見学しました



岡城の石垣の前で記念写真を
撮りました